



● 講演会 ●

認知言語学・用法基盤モデルから
日本語の文法習得を考える
-第一言語と第二言語習得の異同-

講演者： 橋本 ゆかり (お茶の水女子大学)

『普遍性と可変性に基づく言語構造の構築メカニズム
用法基盤モデルから見た日本語文法における第一言語と第二言語習得
の異同』 著者 (2011年12月刊行予定 風間書房)

日時： 2012年1月23日(月) 18:30-20:00

場所： お茶の水女子大学

人間文化創成科学研究科・全学共用研究棟 6階大会議室

参加費： 会員無料／非会員 500円(当日入会可)

お申し込み：①氏名・②所属・③連絡先(e-mail+電話番号)を明記の上
事務局 genbun@cc.ocha.ac.jp までお送りください。

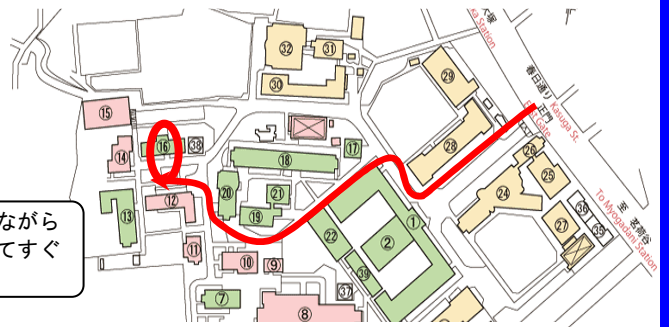
※メールの件名を「講演会への申し込み」としてください。

※申し込み締め切り： 1月15日(日)

第二言語習得は、第一言語習得とどのように異なるのかという疑問は、言語習得を志す者であれば、誰しも一度は抱くのではないのでしょうか？ 本講演では、第一言語と第二言語習得との共通性と差異を探りつつ、日本語の文法(テンスアスペクト、否定形式、可能形式、助詞)習得のプロセスを明らかにし、言語構造構築メカニズムの特徴を仮説として提示するまでをお話します。第一言語及び第二言語習得の幼児を対象に、アスペクト仮説、用法基盤モデルを援用しながら追究した研究であり、約5年間に及ぶフィールドワークから得られた成果です。

研究のきっかけ、理論的背景、
研究方法、研究の段階的進め方なども
詳しくお話したいと思います。

研究棟：正門を入れて直進、突き当たり右折し高校校庭を右手に見ながら
すぐ左折、しばらく直進。生協横の階段を上り、右に進み、左折してすぐ
の右の建物。



東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷」駅より徒歩7分 東京メトロ有楽町線「護国寺」駅より徒歩8分